

「自動車販売店各社による地域支援活動」助成事業

①ダイハツ北海道販売(株)

ダイハツ北海道提供無料車両貸出しによる
交通空白地区の高齢者移動支援事業

②札幌トヨタ自動車(株)

新モビリティ（グリーンスローモビリティ：通称
グリスロ）の実証運行

③帯広トヨペット(株)

デマンド交通「おおぞライナー」運行とカーシェア
リングの導入

④青森トヨペット(株)

モビリティ×予防 要介護手前の高齢者や働き
盛り世代への簡易ヘルスチェックと予防サービス

⑤岩手トヨペット(株)

「スーパーくずまき」の運営

⑥福島トヨペット(株)

オンデマンド個別事業&カーシェアリング事業

⑦茨城日産自動車(株)

「カーシェアリング」「AI乗合タクシー」導入による
大子町活性化

⑧群馬トヨタ自動車(株)

「チョイスコめいわ」「楽ラクシー」を活用した
移動支援サービス

⑨埼玉トヨペット(株)

チョイスコさいたまを活用した
デマンド型乗り合い交通の運行

⑩千葉トヨタ自動車(株)

乗合サービスを提供することで、高齢者の外出
機会の提供と健康促進に貢献プロジェクト

⑪(株)ホンダ東京西

いつでも気軽に外出が出来るモビリティサービス

⑫トヨタS&D西東京(株)

あきる野市の交通不便地域における移動の
しくみづくり

⑬トヨタモビリティ東京(株)

デマンド型コミュニティバス
外出支援ワゴン&通勤支援ワゴンの運行

⑭岐阜トヨタ自動車(株)

オンデマンド型ライドシェア（チョイスコカラタン）
の運行と利便性の提供

⑮トヨタカローラ岐阜(株)

デマンド型乗合タクシーの実証実験

⑯名古屋トヨペット(株)

車いす安心メンテナンスサービス

⑰トヨタモビリティ中京(株)

「地域のクルマ」運行サービスと「いきいき生活
支援」サービス

⑱トヨタカローラ名古屋(株)

「買い物支援サービス」「給電体感イベント」

⑲一社)日本自動車販売協会連合会 滋賀県支部

デマンド型交通サービスの導入
「チョイスコリゅうおう」

⑳トヨタカローラ南海(株)

生活支援一体型の移動支援
&ちよいさぽしのだ

㉑(株)神戸マツダ

兵庫区コミュニティバス「みんなのバス」運行に
よる地域医療・商業・文化活性化

㉒ネットトヨタ神戸(株)

「チョイスコ」を活用した移動支援サービス

㉓トヨタカローラ和歌山(株)

買い物支援「きみのり」+外出機会創造「ちょ
こつとお出かけ支援」モビリティ運行

㉔トヨタカローラ徳島(株)

住民によるコミュニティバス「応神ふれあいバス」
の運営・運行

㉕ネットトヨタ瀬戸内(株)

「チョイスコ」を活用した移動支援サービス

㉖長崎トヨペット(株)

「チョイスコうんぜん」
による地域住民の移動支援事業

㉗鹿児島トヨタ自動車(株)

【広域】肝属温泉タクシー&【肝付町】AIタク
シー他連携による広域移動支援事業

㉘トヨタカローラ鹿児島(株)

チョイスコしぶし事業による移動手段の提供・
生活支援・地域のつながり向上・商業振興

㉙沖縄トヨペット(株)

コミュニティバス「うらちゃんmini」の運行による
移動制約者及び交通難民の支援

②

自家用無償旅客・貨物運送支援プロジェクト

登別温泉地区における地域活性化に向けた新モビリティ（グリーンスローモビリティ:通称グリスロ）の運行～

メンバー

実施者：札幌トヨタ自動車株式会社

連携団体：日本データサービス株式会社、登別市地域公共交通活性化協議会、登別商工会議所
登別国際観光コンベンション協会、株式会社シントウギャザー

活動目的

○交通結節点の整備及び交通結節点からの移動手段を確保するなど、利便性の高い周遊観光の環境整備を行うことで、観光客の滞在中のおでかけを促進し、地域活性化を図るとともに、自動車流入を抑制することによって、交通渋滞や交通事故等の課題を解決する。

登別市：人口47,176人 高齢化率36.5%



活動実績：新モビリティ（グリーンスローモビリティ：通称グリスロ）の実証運行

実施概要

1) 利用者数の特徴	▶10月26日から11月23日の約1ヵ月で、利用者は2,100人。日別では最大で171人(10月31日)
2) 主な目的地	▶グリスロの運行ルートはバスターミナル～泉源公園～石水亭を設定。実際の利用者ニーズ対応し、延長して天然足湯等へも対応。 ▶地獄谷へのニーズが高いことから、関係者と協議を行い本格運行においては地獄谷へのアクセスは可能であるよう調整済み。
3) 運賃など利用者負担の形態	▶実証運行では無償で運行

達成目標と実績
※事業全体

目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標(助成終了時)	2年後の実績(助成終了時)	目標と実績の差の理由
住民及び地域の合意形成	意見交換会開催回数	第7、8回開催	100%	目標達成
新モビリティ(グリスロ)の運行	延べ利用者数	前年度利用者数×105%	—	本格運行以降に検証
地域住民主導の運行体制の構築	検討協議会開催回数	第7、8回開催	100%	目標達成

事業で得た地域との関わり・知見

地域との関わり

1) 地域コミュニケーションづくり	▶コロナ禍で円滑なコミュニケーション体制構築に苦慮したが、登別市の協力もあり、地域住民及び関係者との調整が結果的に円滑に図られた。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶温泉街お出かけマップを来訪者へ配布するとともに、各ホテルが積極的に新モビリティ:グリスロの実証実験をPRしてくれ、利用者が大幅に増加した。
3) 利用者満足度調査の実施状況	▶各方面の積極的な広報・告知で認知度は高く、グリスロの利用者数は想定以上、乗車をお断りすることが何度も発生した。
4) 本事業の効果	▶全利用者へのアンケートで3割がモビリティがあったから外出したと回答しており、グリスロが温泉街の活性化に寄与したことが明らかとなった。

本事業を通じて得た知見

1) 導入方法実験手法の評価	▶実証実験はeCoM-8(10人乗り)で実施したが、本格運行はeCoM-10(16人乗り)を検討することも必要である。 ▶地獄谷へのニーズが高いため、関係者と協議を行い、本格運行においては地獄谷へのアクセスは可能であるように調整済み。
----------------	--

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針の概要・役割	▶登別市から運航委託により、コンベンション協会と交通事業者との連携を図った体制。▶持続可能な地域公共交通に向け、国の補助(フィーダー)を活用。 ▶観光客及び地域住民が利用しやすい運賃形態を検討。					
2) 実施体制	事業主体	登別市	運行主体	コンベンション協会	その他連携先	・道南バス ・北海道運輸局
3) 継続時の利用方法・利用時間 / 予約方法 / 運賃等	▶実証運行終了後の検討課題					
		運行形態		自家用（白ナンバー）		

③

先進安全自動車普及と公共交通利便性向上による抜本的な高齢者の交通事故減少プロジェクト ～生活MaaS実装に向けて～

メンバー

実施者：帯広トヨペット株式会社

連携団体：トヨタカーラ帯広(株)、ネットトヨタ帯広(株)、釧路トヨタ自動車(株)、(株)トヨタレンタリース帯広、十勝バス(株)、北海道拓殖バス(株)、(株)エフエムおびひろ、十勝圏二次交通活性化推進協議会、帯広商工会議所、帯広市(帯広市地域公共交通活性化協議会)、(株)ユニ・トラント、(株)ドーコン、(一社)北海道開発技術センター

活動目的

- 先進安全自動車の普及とデマンド型交通導入による高齢者の交通事故減少
- カーシェアリング導入と公共交通のサブスクリプションサービス実装によるセカンドカーが無くても生活可能な交通環境の構築
- 公共交通へのQRコード決済導入による利便性向上とビッグデータを活用したバスサービスの適正化
- コミュニティFMと連携したリアルタイムな道路交通情報の提供による道路交通円滑化

帯広市：人口164,304人 高齢化率30.1%



活動実績：デマンド交通「おおぞライナー」運行とカーシェアリングの導入

実施概要

※2022年
3月末現在

	デマンド交通 おおぞライナー	カーシェアリング
1) 主な利用者・特徴	大空団地居住の高齢者、午前中の利用者が主、ドア・ツー・ドアの利便性	帯広畜産大学学生の利用が多い。平日利用が週末利用の1.3倍。
2) 主な目的地	団地内の病院・コンビニ・友人宅、団地外の病院や大型商業施設	利用者の走行距離は平均値で39km、中央値17kmと利用者による分散が大。
3) 運賃など利用者負担の形態	通常運賃／片道200円～500円、高頻度利用者向サブスク4,000円／月	支払額平均値＝1,917円、中央値＝1,530円 ※割引料金を設定

達成目標と実績

	目標と達成状況の確認	2年後の最終目標(助成終了時)	2年後の実績(助成終了時)	目標と実績の差の理由
デマンド交通 おおぞライナー	利用者数増加と実態把握	1,080名／月	89名／月	コロナ禍影響
カーシェアリング	利用登録者数増加と実データ把握	200名	37名	目標値の過剰設定と実施期間の縮小
	利用者数増加と実データ把握	600名・回／月	25名・回／月	

事業で得た地域との関わり・知見

地域との関わり

1) 地域コミュニケーションづくり	▶先進安全自動車普及が望まれ、デマンド交通の主たる需要層である高齢者を対象とした計4回のワークショップにおいて、対話を実践。 ▶十勝バス(株)により本事業対象エリア(大空団地地区)でのデマンド型交通が運行するにあたり、十勝バス社員による地域住民への個別訪問を実施。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶全国おおぞライナー、カーシェアリングともに認知は拡大。カーシェアリングは、大学生利用者の変更(卒業・入学での入替り)時の周知PR必要。
3) 利用者満足度調査の実施状況	▶大空を拠点とした住民と対話する場所を設定。おおぞライナーの利用拡大に向け、交通サービス向上と周知PRを展開。
4) 本事業の効果	▶おおぞライナー、カーシェアリングともに、大空団地に居住する高齢者の地域の足の確保や大学生の移動の拡大には貢献出来ている。 ▶アフターコロナにおいて、口コミによる利用拡大等を図っていきたい。

本事業を通じて得た知見

1) 導入方法実験手法の評価	▶ デマンド型交通 ：運行エリア拡大や、サブスクリプション運賃導入など、サービス内容についても随時改善を図っている。 ▶ カーシェアリング ：大学生という需要の存在を確認できたが利用状況を踏まえた設置車両台数見直しが必要。
----------------	--

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針の概要・役割	▶自動車販売店として、大空団地内での先進安全自動車普及に向けた活動を継続。カーシェアリングについては、後方支援の実施。					
2) 実施体制	事業主体＆運行主体	・デマンド交通／十勝バス(株) ・カーシェアリング／(株)トヨタレンタリース帯広	その他連携先	十勝バス(株) ※国交省 共創プロジェクトに参画予定	運行形態	事業用(緑ナンバー)
3) 継続時の利用方法・利用時間 / 予約方法 / 運賃等	おおぞライナー ▶利用日時・人数・目的地が決まれば2週間前から予約可 ▶利用時間：9:00～12:30、14:00～17:00 ▶予約方法：電話＆スマホアプリから ▶運賃：片道200円～500円(距離によって) ※高頻度利用者向けサブスク料金4,000円／月					

④ モビリティを活用した予防サービス（フレイル・生活習慣病）

メンバー

実施者：青森トヨペット株式会社

連携団体：青森市、(株)フィリップス・ジャパン

活動目的

○健康に関するリテラシー向上ならびに本来診療・健康診断が必要な方の洗い出しを行い、予防へとつなげる。
※青森市浪岡地区の公民館・集会場等での地域住民向け簡易ヘルスチェック
※青森市トヨペット店舗での顧客・トヨペット社員向け簡易ヘルスチェック

青森市：人口272,323人 高齢化率32.4%



活動実績：モビリティ×予防 要介護手前の高齢者や働き盛り世代への簡易ヘルスチェックと予防サービス

実施概要 ※2022年 3月末現在	1) 主な利用者・特徴		▶ 浪岡地区をはじめとした、青森市民（特に高齢者と働き世代）		
	2) 主な目的地		▶ 浪岡地区 市公共施設：地域の集会所、公民館、浪岡総合保健福祉センター、花岡プラザ(浴場付き保養施設)民間施設：浪岡農協、りんごセンター ▶ 青森地区 青森トヨペット本社と3店舗：青森西店、青森東店、青森南店		
	3) 運賃など利用者負担の形態		▶ 利用者の費用負担なし。		
達成目標と実績	目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標 (助成終了時)	2年後の実績 (助成終了時)	目標と実績の差の理由
	浪岡地区住民の健康リテラシー向上	ヘルスチェック参加人数	1,000名	204名	コロナの影響でイベント回数と規模を縮小
	弊社顧客＆社員の健康リテラシー向上	ヘルスチェック参加人数	400名	107名	コロナの影響でイベント回数と規模を縮小

事業で得た地域との関わり・知見

地域との 関わり	1) 今回得た知見	▶簡易ヘルスチェックは、測定機器の多くがインターネット経由で測定のため、山間部やへき地での開催は困難。 ▶身体が不自由な方の参加促進のため、車両に障がい者用スロープを積載が有効。
	2) 認知状況と受け入れ状況	▶全国の報道機関や地方自治体から取材＆問い合わせ有り。▶青森市議会、各地域の町会長・教育機関からもプロジェクトに応援有り。
	3) 利用者満足度調査の実施状況	▶サービス参加者には、できる限りアンケートにお答えいただいております。概ね好評を得ています。
	4) 本事業の効果	▶複数回の参加者も多く、前回検査結果との相違について説明するなど、継続して参加いただけるように運営している。 ▶モビリティで各地区の集会所等に出向き、サービスを提供することで移動手段を持たない方にも参加いただけている。
本事業を通じ て得た知見	1) 導入方法実験手法の評価	▶平日の日中開催が多いため後期高齢者の参加率は高く、フレイル予防に寄与している。 ▶反面、生活習慣病リスクが高い働き盛り世代の参加者が少ない。 ▶コロナ禍で参加に向けた効果的な事前PR不足。今後、ポスター掲示・回覧板・チラシ配布だけでなく、HPやFacebookを検討していく。

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針の概要・役割	▶助成終了後も事業推進体である「おおもりヘルステックコンソーシアム)」は継続。方針も継続。※実施体制は下記の通り。								
2) 実施体制	事業主体	青森市 (青森市立浪岡病院)	運行主体	左に同じ	その他連携先	・(株)フィリップス・ジャパン・青森トヨペット(株) ・トヨタ車体(株)・青森県立保健大学		運行形態	自家用(白ナンバー)
3) 継続時の利用方法・利用時間 / 予約方法 / 運賃等	▶利用者の費用負担なし。▶平日や休日の日中に実施：約2時間30分～4時間程度。								

⑥ 交通空白地帯におけるオンデマンド個別輸送事業 ～福島県郡山西部第一工業団地および周辺地域への新たな移動手段の提供～

メンバー

実施者：福島トヨペット株式会社

連携団体：郡山市、(株)会津ラボ、(独)産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所

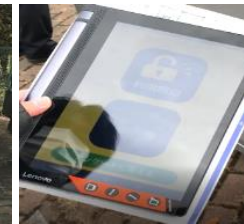
活動目的

移転検討中の郡山西部工業団地で郡山市等の協力のもと

○オンデマンド個別輸送事業（自家用有償旅客輸送）を実施し、地域の交通空白の解消を実現。

○クリーンエネルギーを活用した災害時の「人」「もの」の輸送に貢献。

郡山市：人口317,486 高齢化率：27.5%



活動実績：オンデマンド個別事業&カーシェアリング事業

実施概要

※2022年
3月末現在

1) 主な利用者・特徴

- ▶ 郡山西部工業団地住民（上伊豆島、下伊豆島、長橋地区）ほか、工業団地に隣接する片平町・安子島地区の一部、喜久田長堀之内地区の住民
- ▶ 郡山西部工業団地、うねめ企業団地、(独)産業技術総合研究所 福島再生エネルギー研究所の来訪者、勤務者

2) 主な目的地

- ▶ 送迎、自己利用（買い物、通院等）、レジャー、他。目的地はほぼ平均的に分散された。

3) 運賃など利用者負担の形態

- ▶ 実証実験のため利用者負担は無し。

達成目標と実績

	目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標 (助成終了時)	2年後の実績 (助成終了時)	目標と実績の差の理由
オンデマンド 個別輸送事業のF/S	オンデマンド 個別輸送事業のF/S	ヒアリング及びアンケート配布 月別利用回数の集計	30名/月	オンデマンド中止	スモールスタートを重視しドライバー手配を要するオンデマンド見送り
	買い物困難者の減少	住民アンケートによる 状況把握等	FS検証結果のまとめ 事業計画の立案 (FS調査結果による)	利用者数：27件（試乗含む） 1回あたりの最小距離：約2km （試乗除く） 1回あたりの最長距離：約50km 1回あたりの平均距離：約30km	30件の中、外出自粛の影響下でも ・スモールスタート重視した結果 約30名利用（オンデマンド目標並） ・自宅への配車サービス実施 ・また利用したいという声が多く、利用者には満足いただけた。
	病院への通院困難者の減少				
カーシェアリング事業のF/S	高齢者・単身世帯を対象とする 配食サービス事業者の活用	配食サービス等事業者への 利用意向ヒアリング等			

事業で得た地域との関わり・知見

地域との関わり

1) 地域コミュニケーションづくり

- ▶ 交通事情の現状に関する住民、企業アンケートからシェアリングサービス実証への道筋得た。
また、そこから試算したCO2の排出削減効果は「郡山市気候変動対策総合戦略」の取組みにも合致。

2) 認知状況と受け入れ状況

- ▶ 30件影響に加え地震も影響もあり、活動が制限された。※一部の方には電話でお話を聞かせていただき好意的なご意見をいただきました。

3) 利用者満足度調査の実施状況

- ▶ 今回の実証実験で取得したアンケートの結果からは「満足度は低い」ものと考えられる。

4) 本事業の効果

- ▶ 新型コロナウイルスの影響がありながら20回を超える利用回数を得られたのは、一定の効果。
※実際の効果検証は新型コロナウイルスの収束後と考える。

本事業を通じて得た知見

1) 導入方法実験手法の評価

- ▶ シェアカーの配車というアイデアは有効と考えている。配車拠点を各地に配置できれば配車コストが軽減でき、事業性が期待できる。
- ▶ オンデマンド交通の多くは時間・場所が決まっているため行政、タクシー業界、その他交通事業者が連携し、新たなオンデマンド交通事業が必要。

事業継続について

実証実験の経験と結果を活かし、今後の事業化について会津ラボ・行政・エフコム等と協議を継続する。

ドリーム・ラボ上伊豆島（エフコム様）を基地局として、熱海・片平地区を対象にカーシェア（ドリーム・ラボまでの送迎）、防災イベント開催を検討。

地域公共交通網改善による大子町活性化プロジェクト

メンバー

実施者：茨城日産自動車株式会社

連携団体：大子町役場、NTTドコモ、滝交通、茨城交通、アイマックス

活動目的

- 柔軟な交通網を整備。住民・観光客の交通の利便性を高め、台風被災地区大子町の活性化及び復旧・復興に資する。
- カーシェアリング**：観光やビジネスで来町される方向けの無人のレンタカー。
- 夜間AI乗合タクシー**：夜間に町内飲食店を利用される方の移動手段確保、町内飲食店活性化目的のタクシー運行。
- 町民AI乗合タクシー**：町内の各地域から町の中心部への案内。
- 観光AI乗合タクシー**：観光地から観光地を乗合タクシーで結ぶ。AIシステムで予約と運行ルートを管理。
- 臨時無料巡回バス**：台風被災地区と応急仮設住宅から病院、商業施設を結ぶ乗合バス。
- 大子町：人口

大子町:人口16,679人 高齢化率44.6%



活動実績：「カーシェアリング」「AI乗合タクシー」導入による大子町活性化

実施概要 ※2022年3月末現在		カーシェアリング	夜間AI乗合タクシー	町民AI乗合タクシー	観光AI乗合タクシー	臨時無料巡回バス
	1)利用者数の特徴	利用会員の半数が茨城県民	21時台、郊外地域住民利用多数	朝 & 正午、郊外地域住民利用多数	日中、観光利用多数	公共交通空白地域からの利用多数
	2)主な目的地	-	飲食店	病院・商業地域	観光施設・商業地域	常陸大子駅・スーパー
	3)運賃など利用者負担の形態	時間制100円／15分～	500円／回※障がい者等減免有	300円／回※障がい者等減免有	300円／回※障がい者等減免有	実証実験期間は無料
	4)自治体の補助金・助成金	22年後半～大子町として予算確保	なし	なし	なし	なし
達成目標と実績 ※事業別		目標項目	1年半後の最終目標	1年半後の実績	目標と実績の差の理由	
	カーシェアリング	会員数／利用者数の増加	300名／1日4名	42名／最大12名	会員数300名は立地的に見合わず。連休時は利用者数が増。	
	夜間AI乗合タクシー	タクシー利用者数の増加	20名／日	2.9名／日	コロナ禍で外出自粛などの期間の影響もあり会員拡大、利用者増が想定を下回る結果となった。	
	町民AI乗合タクシー	タクシー利用者数の増加	20名／日	13.8名／日		
	観光AI乗合タクシー	袋田の滝、市内観光の利用者増加	20名／日	4.3名／日		
	臨時無料巡回バス	無料巡回バス利用者増加	-	R3.9運行終了	対象地域住民の移動環境回復。助成期間満了時に運行終了。	

事業で得た地域との関わり・知見

地域との 関わり		カーシェアリング	AI乗合タクシー
	1)地域コミュニケーションづくり	▶説明会等の不足により、サービスそのものが認知不足。スマホ/クレジットカード等電子決済対応に不慣れな方が多いことも課題。	▶地域公共交通会議の開催、予約は原則Web、高齢者向けに電話受付も対応。 ▶未就学児の運賃無料・障がい者等への減免措置を実施。▶安価・定額で運用。
	2)認知状況と受け入れ状況	▶利用及び会員数は増加し続けている。 ※利用者は①地元民の利用②県外観光客の利用。	▶新たな移動手段として利用は増加。事業の認知度向上は継続的課題。 ▶乗降場所増設に関する要望については検討を継続。
	3)満足度調査の実施状況	▶利用者の満足度高く、EVのクオリティも高評価。	▶アンケート結果は高評価。高齢者の利用の問題、他公共交通機関と連携等が課題。
	4)本事業の効果	▶移動手段が満足でない地域(観光地含む)への新たなソリューション提供ができていると 考えており、他にも展開できるモデル。	▶オンデマンド交通の導入により移動利便性の向上が図られ、外出機会の創出に寄与し ていることが利用状況から確認。
本事業を通じ て得た知見	1)導入方法実験手法の評価	AI乗合タクシー ▶既存公共交通との競合、民間交通事業への圧迫を回避して利用者の移動利便性の向上が図られたことは手法として評価できる。 カーシェアリング ▶オンラインで完結する無人サービス、全てデジタル利用という点で高齢者が多いエリアでは導入が進みにくい。現地サポートが必要。	

事業継続について

1) 助成終了後の維持継続計画	▶実費の範囲で利用料を設定し、維持・継続のための事業予算を大子町が確保。※臨時無料巡回バスは、水郡線の復旧により廃止（2021年9月）											
2) 実施体制	事業主体	大子町	運行主体	・滝交通	・茨城交通	・アイマックス	その他連携先	・茨城日産自動車	・NTTドコモ	運行形態	・AI乗合タクシー	・カーシェアリング
3) 継続時の利用方法・利用時間 他	▶サービス形態により利用方法・利用時間・予約方法・運賃等は異なる。											

⑧ 健康増進・交通弱者乗り合い送迎サービス「チョイソコめいわ」／「楽ラクシー」

メンバー

実施者：群馬トヨタ自動車株式会社

連携団体：明和町、明和町社会福祉協議会、(株)アイシン、つつじ観光バス(株)

活動目的

○目的別・機能別移動手段を構築…①**チョイソコめいわ**：地域コミュニティ活性化、②**楽ラクシー**：買物・通院の移動手段確立
○オンデマンドバス導入による公共交通サービス提供。高齢者(移動難民)の移動手段確保。
○住民ニーズに合致した停留所設置。外出のきっかけを創出し、地域コミュニティの形成・発達、住民の健康増進を目指す。
○公共交通政策会議を合同で実施している隣接の1市4町の移動手段に関する問題解決に繋げる。

明和町：人口11,387人 高齢化率28.7%



活動実績：「チョイソコめいわ」「楽ラクシー」を活用した移動支援サービス

実施概要

※2022年
3月末現在

1) 会員数、利用者数 (のべ)

▶**チョイソコめいわ**：会員数647名、利用者数3,974名 ▶**楽ラクシー**：会員数493名、利用者数2,289名

2) 主な目的地

▶明和町役場、明和町社会福祉協議会、川俣駅、スーパーケンゾー、ジョイフル本田、明和セントラルクリニック、館林厚生病院、アゼリアモール ほか

3) 運賃など利用者負担の形態

▶**チョイソコめいわ**：運賃無料※実証実験中 ▶**楽ラクシー**：回数券と5,000円／月の定期券 ※いずれも明和町民の方のみの会員登録制

4) 自治体の補助金・助成金

▶**チョイソコめいわ**：明和町より明和町社会福祉協議会への運行委託 ▶**楽ラクシー**：エリアパートナーからの協賛事業モデル

達成目標と実績

※事業全体

目標項目

利便性の確認

2年後の最終目標(助成終了時)

要望を運行に反映

2年後の実績(助成終了時)

利用者ヒアリング38回

目標と実績の差の理由

出来る範囲で速やかに実現

チョイソコめいわの運行・利用者の確保

会員数650名／利用者数4,000名

会員数647名／利用者数3,974名

利用へのハードル下げる取組不足

楽ラクシーの運行・利用者の確保

会員数533名有料200名／利用者数2,700名

会員数493名有料100名／利用者数2,289名

チョイソコめいわとの棲み分け不明確

事業で得た地域との関わり・知見

地域との関わり

1) 地域コミュニケーションづくり

▶心がけたこと…**運営サイドから地域の方々に近づいていく機会の創造**。実施例：スマホ教室／トヨタマルシェ／認知症予防体操／クルマ買取施策。

2) 認知状況と受け入れ状況

▶町内における「チョイソコめいわ」「楽ラクシー」認知度は非常に高い。ボランティアの「デマンド交通サポーター」が登録・利用サポートをサポート。

3) 利用者満足度調査の実施状況

▶**同乗アンケートを実施**：利用目的、行き先、利用のしやすさ、その他要望をヒアリング。結果は「定例会」「デンサボ会議」等で共有。

4) 本事業の効果

▶**外出機会の創造を達成**。近隣自治体在住の方から「明和町はチョイソコが走っているのでもいいね」の声有り。

本事業を通じて得た知見

1) 導入方法実験手法の評価

▶明和町社会福祉協議会と弊社が中心となり、事業計画＆運営・運行企画・外出のきっかけづくり等を策定。スピード重視で施策を推進できた。
▶事業化に向けての課題等を明和町の担当者を交えて議論する場の整備・構築は今後の課題。

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針の概要・役割

▶チョイソコめいわ（事業主体：明和町／運行主体：明和町社会福祉協議会）楽ラクシー（事業主体：明和町社会福祉協議会／運行主体：つつじ観光バス）に群馬トヨタ自動車(株)は事業パートナーとして全面的に協力。

2) 実施体制

事業主体

明和町社会福祉協議会

運行主体

明和町社会福祉協議会
つつじ観光バス(株)

その他連携先

・明和町・(株)アイシン
・群馬トヨタ自動車(株)

運行形態

・チョイソコめいわ：自家用（白ナンバー）
・楽ラクシー：事業用（緑ナンバー）

3) 継続時の利用方法・利用時間 / 予約方法 / 運賃等

▶チョイソコめいわ＆楽ラクシーともに事前電話予約orWEB予約。※いずれも会員登録必要。▶チョイソコめいわ 8:30～16:30、楽ラクシー 8:30～17:00※土日祝日休み
▶運賃：チョイソコめいわ 無料※3年後の有料化を検討。楽ラクシー 有料(月額／年額払い)。

⑩ 乗合（送迎）サービスを提供することで、高齢者の外出機会の提供と健康促進に貢献プロジェクト

メンバー

実施者：千葉トヨタ自動車株式会社
連携団体：亀田総合病院、鴨川市、(有)鴨川タクシー

活動目的

デマンドバス「チョイソコかもがわ」運行により、コミュニティバス・民営バスでカバーできない地区に対し
①病院・商業施設への通院及び買い物機会の提供
②高齢者の健康維持・活性化の促進

鴨川市：人口32,046人 高齢化率38.7%



活動実績：チョイソコかもがわによる病院・商業施設への送迎の実証実験

実施概要

※2022年12月現在

チョイソコかもがわ

1) 利用者数の特徴	▶ 土日祝は稼働せず、火・金が多い状況 ▶ 9時～11時台が多く通院や買い物利用が多い ▶ ヘビーユーザーのベスト10名で全体の約3割の利用回数を占める
2) 主な目的地	①亀田総合病院 ②市立国保病院 ③おどや長狭店 ④イオン ⑤東条病院 ⑥JR安房鴨川駅 ⑦千葉銀行 ⑧ふれあいセンター ⑨長狭郵便局
3) 運賃など利用者負担の形態	▶ 運賃は、片道300円 or 600円 ※長狭・鴨川、それぞれの地域をまたぐ場合

達成目標と実績

	目標項目	目標と達成状況の確認	2年後の最終目標(助成終了時)	2年後の実績(助成終了時)	目標と実績の差の理由
病院・商業施設への送迎の実証実験	高齢者の通院・買い物移動サポート	利用件数	335回／月	250回／月	カバーエリアの広さも影響し移動時間がかかる為
	ワークショップの開催	計3回実施	累計6回実施 住民様との意見交換	累計6回実施 住民様との意見交換	目標達成
	月例協議会	毎月開催	累計24回実施	累計18回実施	議題の有無により時期別バラつき
	活動の利便性の確認	利用者へのヒアリング	累計12回実施	累計15回実施	目標達成

事業で得た地域との関わり・知見

地域との関わり

1) 地域コミュニケーションづくり	▶ 地域の人脈不十分ながら紹介によって輪を広げ、地元の様々な集まりに顔を出すことで情報を収集した。 ▶ 高齢者対応については難しい場合もあるが、店舗のエルダースタッフ（定年後再雇用社員）に上手く対応していただいている。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶ 事業者側の達成感はずまず、チョイソコの認知も上がってきている。行政などからの支援がない中でも、自治会(該当地域住民)の理解は概ねある。
3) 利用者満足度調査の実施状況	▶ 訪問アンケートを実施。女性は免許返納してチョイソコ利用があるが、男性はなかなか返納しない。※限界集落では自家用車に頼った生活が浸透
4) 本事業の効果	▶ チョイソコ利用者のQOL向上には寄与してしているも、日常使用される方は約80名程度に留まる。 ▶ コトづくりがまだ少ないが、団体利用で食事や買い物など、ポジティブな外出創出には繋がりがつつある。

本事業を通じて得た知見

1) 導入方法実験手法の評価	▶ 導入方法については改善の余地あり。初めに行政側に予算確保をしていただいてから、実施すべきだったかもしれない。行政支援確保が収益化の要。 ▶ 民間企業のみでの運営という事で、何事もスピーディに対応していたことは評価していただいていた。
----------------	---

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針の概要・役割	▶ 2023年度は事業主体を千葉トヨタが継続実施。2024年度は事業継続に向け、鴨川市と調整・検討を実施					
2) 実施体制※2023年度	事業主体	千葉トヨタ自動車(株)	運行主体	(有)鴨川タクシー	その他連携先	・長狭地区区長会 ・鴨川市、地区の社会福祉協議会 ・医療団体 ・包括相談センター長狭 ・鴨川市議会議員
3) 継続時の利用方法・利用時間 / 予約方法	▶ 利用方法：会員登録が必要 ▶ 利用時間：平日8:00～16:00 ▶ 事前予約制：電話＆スマホから ※詳細は「千葉トヨタ チョイソコかもがわ」で検索					
					運行形態	事業用 (緑ナンバー)

⑪ 青梅市における買い物弱者及び外出困難者支援活動

メンバー

実施者：株式会社ホンダ東京西
連携団体：(株)マルフジ、特定非営利活動法人にしたま

活動目的

- 青梅市内の交通空白地の利便性を高め、移動手段を必要とする高齢者や地域住民の利便性を向上させる。
 ※特に買い物弱者や移動困難者の救済
- 外出を促すことで健康促進と、高齢者のコミュニティづくりを目指す。
- スーパーを停留所にする事で、宅配ではなく自ら購入する楽しみや、地域住民同士の交流を図る。
- 公民館や病院、スーパー、飲食店等にスポンサーとなってもらい、停留所を設け、集客しやすくすることで、地域事業の継続的活性化を図る。

青梅市：人口130,516人 高齢化率31.6%



活動実績：いつでも気軽に外出が出来るモビリティサービス

実施概要 ※2022年 3月末現在

1) 主な利用者・特徴	▶発着点が商業施設であり特売日の利用者が多い。娯楽施設も併設されており、土日は男性利用者が多い。
2) 主な目的地	▶発着地点となっている「プラザ5」(複合商業施設)と青梅駅で多くの利用者が降車。
3) 運賃など利用者負担の形態	▶無償運行。

達成目標と実績 送迎サービスの 運行

目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標(助成終了時)	2年後の実績(助成終了時)	目標と実績の差の理由
定期的な運行	利用乗車数(27日/月)	85乗車/日(1台)、2,295乗車/月	39乗車/日(1台)、941乗車/月	コロナの影響もあり、新規利用者増加が想定通りに見込めなかった。
スポンサー収入	スポンサー収入(平均6万円/年)	36万円/年(6事業所)	0円/年	コロナの影響で地域商店の打撃が想像以上にあり、協賛金のお話しがしにくい状況であった。

事業で得た地域との関わり・知見

地域との 関わり

1) 地域コミュニケーションづくり	▶いつもバスをご利用いただいている 利用者同士のコミュニケーションの場 になっている。 運転手も見守り活動の役割 を担っている。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶エリア内居住の方へチラシを配布、バス運行やアプリの存在を周知。 アプリ利用者がチラシ配布後に急増。コロナ禍でも激減は無。
3) 本事業の効果	▶山間地域を含む交通空白地帯居住者にとって当バスが唯一の移動手段である地域住民も存在。 コミュニティや人と関わる喜び提供に貢献。

本事業を通じ て得た知見

1) 導入方法実験手法の評価	▶コース外の外出困難者や買い物弱者を全てフォローすることは困難。行政サポートが必要な中、 当活動が青梅市の理解と賛同を得られた。 ▶WEBアプリも広告のみならず、バス利用者特典ポイント付与がシステム化できれば、バス乗車率とアプリ利用率も上がる。今後も継続努力。
----------------	--

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針の概要・役割

▶助成終了後は、車両を特定非営利活動法人にしたまへ無償譲渡し、特定非営利活動法人にしたまが事業主体となって本事業を継続。運行主体マルフジは今後も青梅市と連携し活動継続。

2) 実施体制

事業主体	特定非営利活動法人にしたま	運行主体	(株)マルフジ	その他連携先	(株)ホンダ東京西	運行形態	自家用(白ナンバー)
------	---------------	------	---------	--------	-----------	------	------------

3) 継続時の利用方法・利用時間 / 予約方法 / 運賃等

曜日・コース毎に異なる時刻表（プラザ5 発）※無償運行

青梅駅コース	火曜、土曜 9:30～16:20	青梅街道コース	水曜、日曜 9:30～14:30	小曽木街道コース	木曜 9:30～15:30	長洲・駒木・畑中 コース	金曜 10:30～14:00
--------	---------------------	---------	---------------------	----------	------------------	-----------------	-------------------

⑫ あきる野市の交通不便地域における移動のしくみづくり

メンバー

実施者：トヨタS&D西東京株式会社

連携団体：あきる野市、横川観光(株)、(株)アイシン、特定非営利活動法人(NPO)にしたま

活動目的

○地域の交通不便解消と地域振興に貢献

あきる野市と共に課題を明確化し、課題解決に取り組む

○高齢者への移動サービス提供

○「るのバス」(市運営)を補完

全年齢層を対象、地元事業者と連携した町おこし・経済振興にも貢献

あきる野市：人口79,904人 高齢化率：30.5%



活動実績：あきる野市の交通不便地域における移動のしくみづくり

実施概要

※2022年
9月末現在

1) 利用者数の特徴	▶会員登録者 計224名(人口の9.5%)※実際の利用経験者は84名 ▶1日当たりの利用者は10.7件 ▶高齢者層(65才～)が主体＝利用者の71% ▶女性利用者が多い(68%)※高齢者が大半 ▶ヘビーユーザー(週30回以上利用)が11%
2) 主な目的地	買い物・病院への利用が主体…【目的別割合】 買い物施設：29%、公共交通施設：25%、医療施設：16%、JA施設：15%
3) 運賃など利用者負担の形態	小学生以上：200円／1回 ※るのバス専用回数券あり ※障がい者手帳保有・及びその付添の方は半額

達成目標と実績

目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標 (助成終了時)	2年後の実績 (助成終了時)	目標と実績の差の理由
利用率向上	登録会員数(対象人口比)	400名(19.3%)	224名(9.5%)	当初予定した、「高齢者の外出機会増」の活動できず
	乗車実績(1日当たり件数)	230件／月(11.5件)	213件／'22/9月(10.7件)	
地域振興	事業者停留所設置数	60	34	大規模スーパーの獲得少
	(将来の)事業協賛者候補停留所	20	20	

事業で得た地域との関わり・知見

地域との関わり

1) 地域コミュニケーションについて	▶地域住民への説明会・会員登録会を計6回開催。利用方法・利用に関するご意見やご要望をヒアリング。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶会員登録者数、会員比率は全体目標未達ながら、交通不便度のより高い網代地区の登録者比率は計画を上回ることができた。
3) 本事業の効果	▶ご利用になられたお客様の声は非常に温かく、多くの感謝の言葉を頂いたことが非常に大きなモチベーションとなった。

本事業を通じて得た知見

1) 導入方法実験手法の評価	反省点	▶実証実験の開始が6ヶ月遅延したこと ▶事業協賛者の方々にとって魅力となるほどの利用度・メリットが感じられていない点 →将来の事業化にあたって、運行区域・時間帯・費用面等、再検証
----------------	-----	---

事業継続について

実施体制・方針の概要・役割	現在の「民間主体」の運営を継続。2023年度については、あきる野市と協議の上、助成金を確保し運営継続する。							
	事業主体	S&D多摩ホールディングス 来年度～:同上またはグループ企業	運行主体	横川観光(株)	その他連携先	・あきる野市 ・(株)アイシン ビジネスプロモーション局 ・特定非営利活動法人にしたま	運行形態	事業用 (緑ナンバー)
方法/利用可能曜日 /	利用方法▶各路線停留所からの乗車▶利用可能曜日：平日（月曜～金曜）▶運賃：200円／1回 ※詳細はあきる野市ホームページ							

13 世田谷区 狭隘道路による交通困難地区へのコミュニティバス運行(試行)

メンバー

実施者：トヨタモビリティ東京株式会社
連携団体：世田谷区、MONET Technologies

活動目的

○世田谷区と協力し、デマンド型コミュニティバスを運行することで
▶区民の外出機会の創出、▶病院等への定期往訪による健康寿命の長期化を促進。
○世田谷区内の地域企業と連携し、地域の利便性向上・活性化を図る。

世田谷区：人口917,145人 高齢化率18.6%



活動実績：デマンド型コミュニティバス…外出支援ワゴン&通勤支援ワゴンの運行（20年11月から21年8月までの実施実験）

実施概要	実施地域と主な利用者		世田谷区喜多見 1 ～7丁目・宇奈根 1 ～ 3 丁目の居住の会員。※利用者の72.1%がピーター。		
	外出支援ワゴン		・スマホアプリ・電話で、乗車希望場所・時間を事前に予約。乗り合いで各目的地まで送迎 ・運行時間：10:00～18:30(平日のみ)		
		主な目的地	玉川高島屋、OKストア成城、京王ストア、サミット成城、ウェルパーク、多摩川病院、関東中央病院等		
	通勤支援ワゴン		・喜多見・宇奈根地区に設定した乗車場所より下記目的地(バス停付近)まで送迎 ・運行時間：6:30～8:30（平日のみ）		
		主な目的地	「下宿バス停」「永安寺前バス停」「鎌田バス停」※各バス停からは路線バス利用		
	運賃		無償		
達成目標と実績 ※事業全体	目標項目	1年後の目標(21/8月末)		実績	目標と実績の差の理由
	世田谷区民の移動手段確保	利用者：20名／日		15	21年2月頃まで10ヶ月で利用少

事業で得た地域との関わり・知見

地域との関わり	1) 地域コミュニケーションづくり	▶ 世田谷区を通じて住民とのパイプができ、対話が実現。※ドライバー(弊社社員)と地域住民のコミュニケーションが図れ、取組みの地域浸透が進む。
	2) 認知状況と受け入れ状況	▶ サービスの利用満足度は高く、ニーズと合致していると認識（アンケート調査より）※運行時間及び曜日の拡張要望あり。
	3) 利用者満足度調査の実施状況	▶ 利用者アンケートで路線バス同等の金額が料金の許容範囲を把握：平均利用回数は10回/月
	4) 本事業の効果	▶ 交通不便地域におけるデマンド型移動支援ニーズが顕在化。高齢者だけでなく幅広い年代(子育て世代など)の利用ニーズを確認。
本事業を通じて得た知見	1) 導入方法実験手法の評価	▶ 地域に根差した店舗を目指すために、利用者とコミュニケーションの取れる移動支援サービスは効果的。 ※課題…成功には自治体の後押し、もしくは緑ナンバーとしての事業化が必要。

事業継続について

事業終了 ▶ 同地区では、既存コミュニティバス路線を再編し、バス事業者によるオンデマンド化を検討

⑭ オートモール併設カラフルタウン岐阜を中心とした市内商業施設MaaSによる地域活性化

メンバー

実施者：岐阜トヨタ自動車(株)(まとめ役)、岐阜トヨペット(株)、トヨタカローラ岐阜(株)
 ネットトヨタ岐阜(株)、岐阜ダイハツ販売(株)

連携団体：（株）ヨタオートモールクリエイト、アイシン（株）、（株）ヨタレンタリース岐阜、岐阜聖徳学園大学、岐阜市（交通総合政策課）、（株）セブン-イレブン・ジャパン、（株）スギ薬局、笠松町（企画環境経済部）他

活動目的

- 「移動」の動機づけから、その手段と、移動先での楽＋愉しみづくり。
- 現在、クルマが必須の移動手段である岐阜市エリアで、今後更に移動をしていただくための機会を創出。
- 新たな移動の手段であるライドシェアの展開。
- 移動をし、移動先で楽しみながらお金を使っていたくことで、地域の活性化を行う。

岐阜市：人口413,000人 高齢化率33.0%



活動実績：オンドマンド型ライドシェア(チョイソコカラタン)の運行と利便性の提供

実施概要	1) 利用者と利用者数の特徴	①年齢層は65歳以上のシニア世代(女性が6割を超える) ②月曜午前中(主に通院目的) ピーク ③土日は、車で家族移動が多く利用者が少ない		
	2) 利用者の主な目的地	▶カラフルタウン岐阜、松波総合病院、柳津駅、黒田内科クリニック 他		
	3) 運賃など利用者負担の形態	▶運賃250円／回 ※新規会員登録の方に、往復体験試乗券の配布		
	4) 自治体の補助金・助成金	▶2021年10月より2022年2月までを契約期間とし、笠松町の補助金発生。		
達成目標と実績 ※事業全体	目標項目	2年後の最終目標(助成終了時)	2年後の実績(助成終了時)	目標と実績の差の理由
	チョイスコカラタン会員の確保	会員数：1,000名	662名	サービスへの低認知
	チョイスコカラタン利用者の確保	利用経験者数：5,500名	1,071名	緊急事態宣言等発令による外出自粛等

事業で得た地域との関わり・知見

地域との 関わり	1) 地域コミュニケーションづくり	▶コロナ感染拡大による周知が困難な中【医療機関を通じた利用促進依頼】【免許返納者に対し地域警察署との連携】などを実施。
	2) 認知状況と受け入れ状況	▶コミュニティバス運営協議会主体の自治会より料金＆停留所に関する条件提示あり。
	3) 利用者満足度調査の実施状況	▶ドライバーによる口頭アンケートを依頼：約1ヶ月間、運行委託先の日本タクシーのドライバーから利用者へのアンケートを実施。
	4) 本事業の効果	▶シニア世代の定期的な通院の機会創出※毎月130回程度ほぼりピーター ▶他の目的での利用者もリポート率高く、認知と体験の重要性を理解。
本事業を通じ て得た知見	1) 導入方法実験手法の評価	▶事業費用をどのように賄うかは、需要に基づき、地域、利用者、行政との協議が必要。 ▶引き続き地域交通の需要と対策について、行政と協議をしていく環境と関係性づくりを継続。

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針の概要	▶実証実験継続 ▶地域販売会社、カラフルタウン出店テナント様の費用協賛 ▶地域医療機関との連携							
2) 実施体制	事業主体	(株)トヨタオートモールクリエイト	運行主体	・(株)アイシン ・(株)日本タクシー	その他連携先	岐阜市(交通総合政策課) 地域タクシー会社	運行形態	チョイスコカラタン(オンデマンド型ライドシェア)
3) 継続時の予約方法／運賃	▶事前電話予約orWEB予約。 ▶運賃250円／回							

⑮ 大垣市の高齢者がライフステージに合わせて移動手段を選択できる地域づくり ～安全な自家用車利用の支援+オンデマンド型交通～

メンバー

実施者：トヨタカローラ岐阜株式会社

連携団体：上石津プロジェクト全体会議、大垣市都市計画部交通政策課、上石津地域事務所
大垣市地域公共交通会議、スイトラベル(株)、トヨタ・ユニック・プロ(株)、(株)市場調査名古屋

活動目的

- 自家用車による自力移動が実現する移動の自由がある暮らしから、公共交通機関を活用した移動による暮らしへの転換。
- 免許返納“まえあと”アクション…高齢者の免許返納検討期に、「安全な自力移動の学び」と「公共交通の活用方法」をセットで提供し、高齢者の「移動と暮らし」について考える。
- 利便性と経済性の最適化による「路線バス+デマンド交通」で、“持続可能な地域交通手段”の構築をめざす。
- 大垣市全体への展開や中山間地を抱える他の地方都市の参考になるモデルづくりをめざす。

大垣市：人口159,280人 高齢化率27.8%



活動実績：デマンド型乗合タクシーの実証実験（1回目2.75ヵ月、2回目5.75ヵ月。平日の7:00～17:30運行。）

実施概要

※2022年
3月末現在

1) 参加者及び会員登録者数	▶会員登録1回目497人（上石津地域65歳以上人口の25%）▶会員登録2回目670人（上石津地域65歳以上人口の33%）
2) 利用実績	▶1回目34回（1ヵ月あたり：15回）2回目306回（1ヵ月あたり：53回、会員数の8%、65歳以上人口の約3%）
3) 利用者の特徴	▶利用者の8割が女性。80～84歳の利用が半分を占め、75歳以上で全体の7割。利用者（のべではない）は、会員数の1割。
4) 主な目的地	▶利用目的の9割は、隣町の養老町にある西美濃厚生病院、スーパー。上石津町地域内は診療所、歯科、庁舎、金融機関。
5) 運賃など利用者負担の形態	▶会員に対しクーポン券（200円割引券×2枚）配布。

達成目標と 実績 ※事業全体

目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標(助成終了時)	2年後の実績(助成終了時)	目標と実績の差の理由
現実的な運行方法の確認	利用者数	1台／1日の利用者が 会員登録数の3%	1台／1日の利用者が 会員登録数の1%	計画当初とは異なり、コミュニティバスの運行が並行して行われ競合し利用者伸びず。

事業で得た地域との関わり・知見：デマンド型乗合タクシー

地域との 関わり

1) 地域コミュニケーションづくり	▶1年目はコロナ禍の影響で外出自粛傾向が強く、当事者となる高齢者との接触がほぼできなかった。2年目はやや改善されたが接触は限られ不十分。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶2回目の実証実験での説明会が自治会主催となったことで認知が進み会員登録者数の増加、利用者数の増加につながった。
3) 利用者満足度調査の実施状況	▶「外出頻度の改善:24%」「生活充実度:44%」「外出意欲・外出時のストレス:50%」「外出時の便利さ:61%」改善。生活向上に大きく貢献。
4) 本事業の効果	▶アンケート調査の結果からも外出手段の提供により、QOLは向上した。

本事業を通じ て得た知見

1) 導入方法実験手法の評価	▶デマンド型乗合タクシーについては、住民ニーズやQOLへの効果が顕在化したため、自治会を介した導入は評価している。今後は、既存公共交通機関との連携を前提に運行計画を作る必要がある。
----------------	--

事業継続について

1) 助成終了後の実施について

▶上石津デマンド乗合タクシーについては助成終了と共に本事業を終了する。“まえイベント”は今後も実施の検討を継続する。

2) 実施体制

▶まえイベント 開催する場合：事業主体は、トヨタカローラ岐阜※開催未定。検討段階。

※免許返納まえイベント…「学びと体験会」参加者を対象に、免許更新制度の改定を機にした自身の運転に対する気づき／先進安全装備への理解／代替え交通手段／免許返納への意向を確認し可能なサポートを実施する。

①6 車いす安心メンテナンスサービス

メンバー

実施者 : NTP名古屋トヨペット株式会社
連携団体 : NTPグループ、日本福祉用具評価センター

活動目的

〇地域の高齢者の日常の足として、車いすを安全・安心して利用して頂ける地域環境づくり

名古屋市：人口2,325,778人 高齢化率25.4%



活動実績：車いす安心メンテナンスサービス

実施概要 ※2022年 3月末現在

- | | |
|----------|---|
| 1) 主な利用者 | ▶ 社会福祉協議会、車いす利用者、自治体・公共施設 |
| 2) 実施項目 | ▶ 「車いす安全整備士」資格保有者の全店舗配置 ▶ 本部スタッフによる車いす整備の対応 |

達成目標と実績

目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標(助成終了時)	2年後の実績(助成終了時)	目標と実績の差の理由
「車いす安全整備士資格」保有者数配置	累計の資格取得者数	100人	125人	不合格者、異動、退職などによる増減に対応
資格者1人あたり2台の整備	累計の整備台数	200台	54台	コロナ禍による行動制限、接触先の限定

事業で得た地域との関わり・知見

地域との関わり

- | | |
|-------------------|---|
| 1) 地域コミュニケーションづくり | ▶ 社会福祉協議会、公共施設との関係づくり、車両展示会の会場との連携。 |
| 2) 認知状況と受け入れ状況 | ▶ 車いすの9割が介護保険を利用したレンタルであり、告知できる事業ではなかった。また「点検する」という習慣がなく、有償作業のハードルの高さを痛感。 |
| 3) 利用者満足度調査の実施状況 | ▶ 各施設からは「 普段点検をせず貸出しをしており、利用者への安全提供の上でとても良かった 」との声をいただいた。 |
| 4) 本事業の効果 | ▶ 利用開始から未点検で耐用年数を大幅に超える車いすもあり、注意喚起につながった。 |

本事業を通じて得た知見

- | | |
|----------------|--|
| 1) 導入方法実験手法の評価 | ▶ 車いすの9割近くが介護保険を利用したレンタルの為、本事業がボランティアの要素がないと成立しない事を開始してから痛感。事前の調査が足りていなかったと反省。 |
|----------------|--|

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針の概要・役割

- ▶ 資格保有者によるボランティアの実施
- ▶ 車いす利用者への地域支援活動
- ▶ 車いす業界に貢献出来るよう本事業によって出来た繋がりを生かした活動

⑪ 「地域のクルマ」の活用による地域活性化プロジェクト

メンバー

実施者：トヨタモビリティ中京株式会社

連携団体：蟹江町、蟹江町社会福祉協議会、蟹江町東・西地域包括支援センター、NTTドコモ



活動目的

○地域のクルマ事業活性化：蟹江町の通院・買い物困難者への機会提供による健康維持と地域活性化の促進

蟹江町：人口37,376人

活動実績：「地域のクルマ」運行サービスと「いきいき生活支援」サービス

	地域のクルマ運行（かにあし）	いきいき生活支援サービス
1) 主な利用者・特徴	利用目的は通院、買い物。蟹江町鍋蓋・南・舟入地区在住の65歳以上の方	火・木はサロン利用(9:30~10:00)
2) 主な目的地	町内の主要医療機関・スーパー・バス停・駅等	サロン・喫茶店・老人クラブ・各種講座＆イベント開催会場等
3) 運賃など利用者負担の形態	なし	なし

	目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標 (助成終了時)	2年後の実績 (助成終了時)	目標と実績の差の理由
地域のクルマ運行	通院・買い物困難者の減少	利用者数(会員数)	120名	129名	目標達成
	定期運行	運行回数	3回以上／週	5回／週	利用者ニーズに応え運行回数拡大
いきいき生活支援	利用者と地域とのコミュニケーション	イベント参加人数	100名	イベント:4名 加:4名 喫茶店:24名	コロナ影響でイベントやサロンの開催減少

事業で得た地域との関わり・知見

1) 地域コミュニケーションづくり	▶ 住民宅への個別訪問で直接話をするにより、疑問点や不安などにお答えすることによって改善ができてきた。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶ 移動支援に関しては概ね満足いただき、住民のニーズにもできる範囲で応えることができた。
3) 利用者満足度調査の実施状況	▶ 満足度の調査はしていないが、利用者からは概ね好評。
4) 本事業の効果	▶ 移動支援事業を行ってから「今まではバス停まで歩くのと荷物をもって家まで歩くのが大変だったが、家の近くに停留所ができ買い物が楽になった」との声や独居高齢者が「移動時に車内でドライバーと話ができることがなにより嬉しい」との声を聞いたり、本事業の効果は十分にあった。

1) 導入方法実験手法の評価	▶AI運行バスシステムによる運用でスマートフォンでいつでも利用予約ができることから、利用者向けスマートフォン無償貸与を行い予約方法の説明会を実施するも高齢者にはスマートフォンの扱いは難しく、予約はほとんどTELになったが、予約を受ける側には簡単なパソコン操作で予約受付ができ車載端末に予約情報をタイムリーに送られることから必要なシステムとなっている。
------------------------------	--

事業継続について

実施体制・方針の概要・役割	・実施主体は現状継続(地域住民主体) ・町の交通政策窓口と協議を継続 ・当社として今後は情報提供やイベント支援などで関わっていく							
	事業主体	社会福祉法人 蟹江町社会福祉協議会	運行主体	蟹江町移動支援運営委員会	その他連携先	・蟹江町 ・蟹江町地域包括支援センター	運行形態	自家用(白ナンバー)
方法・利用時間 / 運賃等	地域のクルマ▶利用希望者は事前に会員登録▶利用時間：8:30-12:00▶予約方法：社協に電話予約orスマホアプリ予約 ▶運賃：無料							

愛知県弥富市と連携して、トヨタカローラ名古屋の遊休資産を活用し行政と地域住民の課題・困りごとである「移動手段提供&地域の活性化&防災啓発」を解決するプロジェクト

メンバー

実施者：トヨタカローラ名古屋株式会社

連携団体：弥富市、(株)デンソーソリューション、(株)ハットリマーケティング、ロコモ チャレンジ！推進協議会

活動目的

○遊休資産活用…トヨタカローラ名古屋の車両（電動車）を有効活用することによって

- ①弥富市の「高齢者の移動手段&移動の増加、地域活性化」を解決する。
- ②災害時の給電啓発活動も行うことができ「安心・安全な街づくり」にも寄与する。

○買い物支援サービス

○給電体感イベント

弥富市：人口44,060人 高齢化率：26.2%



活動実績：「買い物支援サービス」「給電体感イベント」

実施概要

※2022年
3月末現在

	買い物支援サービス
1) 主な利用者・特徴	弥富市の高齢者及び障害者（要支援・要介護者）へ平日のみのサービスを提供。午前中の利用者が多かった。
2) 主な目的地	買い物支援サービスのためスーパーがメインも、大型ショッピングモールへの依頼も多かった。
3) 運賃など利用者負担の形態	利用料は30分350円。利用料の割引はないが、ささえあいセンターで実施の他のサービスと合わせて1500円を超えると半額を返金。

達成目標と実績

	目標項目	達成状況の 確認方法	2年後の最終目標 (助成終了時)	2年後の実績 (助成終了時)	目標と実績の差の理由
買い物支援サービス	高齢者の外出支援	利用者数	90名/月	利用会員数21名	対象が要支援・要介護で絞っており、告知も難しかった。
	地域住民の参加	協力者数	30名	協力会員数14名	女性ドライバー希望者多い一方、車両サイズから運転不安あり。
給電体感イベント	給電機能の認知理解の拡大	イベント参加人数	100名	100名（イベント実施2回）	コロナ影響で弥富市内イベントを予定通り開催できず。

事業で得た地域との関わり・知見：「買い物支援サービス」

地域との関わり

1) 地域コミュニケーションでの苦慮	▶利用者を要支援・要介護の方にしており、利用時の丁寧な配慮が必要。対象外の方からの問い合わせへの説明。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶上記の点を差し引いても圧倒的に感謝され喜ばれるケースが多い。協力会員の方から熱心な協力があり、利用者と協力会員の関係性が良好。
3) 利用者満足度調査の実施状況	▶ リスク回避 危険を伴う高齢者の移動を安全な手段に変更できた。▶ 自立支援 長期入院からの退院後サービス利用の後、自力外出に繋がった。
4) 本事業の効果	▶宅配などを利用していたが、自分で買うものを選べたり鮮度などを見て選べたりするので、今までの暮らしと全く違い生活にハリが出たという意見増大。

本事業を通じて得た知見

1) 導入方法実験手法の評価	▶利用者や協力会員から頂いたご意見は概ね前向きなものが多くサービス内容としては良かった。 ▶行きたいときにすぐ行けないので、タクシーの方が便利。（協力会員との日程調整が必要で即時回答ができないため） ▶買い物以外のニーズ（金融機関・病院）も多く、サービスの内容上対応が難しい部分があった。
----------------	--

事業継続について

実施体制・方針の概要・役割	引き続き送迎車両の無償リースを継続。弥富市を運行主体として、車両貸与・メンテナンス・利用者のニーズに合わせた対応をトヨタカローラ名古屋としてサポート。							
	事業主体	弥富市 介護高齢課	運行主体	弥富市 介護高齢課	その他連携先	－	運行形態	自家用(白ナンバー)
方法・利用時間 / 運賃等	利用方法▶予約完了後ご自宅へ送迎 ▶利用時間：要相談 ▶予約方法：ささえあいセンターへ連絡 ▶運賃：30分350円							

21

実施者：株式会社神戸マツダ

連携団体：神戸市兵庫区、みなと観光バス(株)、日本コンピュータビジョン(株)、富士ソフト(株)、Kiss-FM神戸、地域各自治会
他、主な医療機関／商業施設／文化施設、スポーツ施設、東京海上日動火災保険(株)

○神戸市兵庫区が現在進めている「やさしさ思いやりのまち 兵庫」の重点テーマ

- ・「子供と高齢者の笑顔あふれるまちづくり」
- ・「地域の市場＆商店街の活性化」
- ・「歴史ある地域＆文化活動の活性化」

等の促進を図り、兵庫区全体のにぎわいと発展に寄与する。

神戸市兵庫区：人口109,144人 高齢化率26.8%



活動実績：兵庫区コミュニティバス「みんなのバス」運行による地域医療・商業・文化活性化

1) 主な利用者・特徴

▶兵庫区住民：利用者のメインはシニア／子育て主婦等。運行は平日のみ(土日祝は運休)。10時～16時の利用が多い。

▶兵庫区役所、神戸

▶兵庫区役所、神戸川崎病院、神戸百年記念病院、三菱神戸病院、北部商店街&文化施設、南部住宅&スポーツ施設、文化歴史施設、食事&買物。

▶運賃：大人210円

▶運賃：大人210円、小人110円、身体障がい者・知的障がい者(大人110円、小人60円)、神戸市在住の70歳以上の方は無料。

目標項目

みんなのバスによる
人流の活性化

達成状況の確認方法

利用客数管理

2年後の最終目標(助成終了時)

200名／日

2年後の実績(助成終了時)

157名/日

目標と実績の差の理由

コロナ禍による「外出自粛」「認知不足」「地域支援団体の巻き込み不足」等。

事業で得た地域との関わり・知見

1) 地域コミュニケーションづくり

▶運行時間・日時・ルートを検討するに際し、当初から要望の高かった地区の交通活性化を図りながら、利便性改善や区内脈わいづくり貢献へ工夫。

2) 認知状況と受け入れ状況

▶兵庫区(地域住民)からの要請＝区内南北交通の活性化への貢献ができた。神戸市広報誌や地元FM局等での情報発信で乗客数は徐々に増加。

3) 本事業の効果

▶高齢者の外出促進・通院による健康増進・区役所開催の子育てセミナーへの参加促進・交通困難地区住民への支援等。

1) 導入方法実験手法の評価

- ▶行政、地域、運行委託先、PR関連会社、弊社(神戸マツダ)が企画初期からプロジェクトチームを組んで利用者拡大に向けた取組を展開できた。
- ▶反省点としては、地域の組織化「みんなのバスを支える会」が後手にまわっている点。(現在、兵庫区役所リードで組織化実施中)

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針の概要・役割

▶神戸マツダが運営・出資主体となり、神戸市兵庫区／みなと観光バスと連携して運営。方針(兵庫区内南北交通の活性化)等については変更なし。

2) 実施体制

事業主体

(株)神戸マツダ

運行主体

みなと観光バス(株) (業務委託)

その他連携先

神戸市兵庫区

運行形態

事業用(緑ナンバー)

3) 継続時の利用方法・利用時間 / 運賃等

利用方法▶バス停方式, 利用時間▶朝7時台～夜8時台を予定※土日祝も運行本数を減らして運行、運賃▶変更なし（身障者・高齢者割引継続）

乗り合い移動サービス「チョイソコいながわ」を活用した移動支援サービス （含む地域活性化と見守り活動）を定着させるための実証実験と実施報告

メンバー

実施者 : ネットトヨタ神戸株式会社

連携団体：猪名川町、アイシン、日の丸ハイヤー、損害保険ジャパン

活動目的

○猪名川町地域の交通不便を解消し、高齢者の外出促進に貢献。

○民間企業が事業主体となり、エリアスポンサーからの協賛を得ることで採算性を確保。

○各種イベントの企画・実施力により、単なる移動支援サービスにとどまらず、見守り活動や健康増進につながる外出支援の〈コト〉づくりを推進。

猪名川町：人口29,680人 高齢化率31.7%



活動実績：「チョイソコ」を活用した移動支援サービス

实施概要

※2022年
3月末現在

1) 利用者数	▶会員数：1,100名。▶利用経験者数：会員数の約1/3。
2) 主な目的地	▶「日生中央駅」「杉生(バス停)」「大島小学校前」「柏原」「柏原口」「柏原下西2」「坂田診療所」「船田医院前」他。
3) 運賃など利用者負担の形態	▶2022年4月より小児運賃、障がい者割引、回数割引を導入。➡回数割引は『顔認証＋キャッシュレス』により割引率自動適用実施。現在利用率約30%。
4) 自治体の補助金・助成金	▶猪名川町からは「チョイソコいながわ」の運行について助成金有り

達成目標と実績

※事業全体

目標項目	2年後の最終目標(助成終了時)	2年後の実績(助成終了時)	目標と実績の差の理由
「チョイソコ」を活用した移動支援の実証実験	2022年4月から4条本格運行へ移行	2022年4月から4条本格運行へ移行	
登録会員数	2000名	1071名	コロナ禍で住民説明会減
当社主催イベント	20回	4回	コロナ禍による中止が主な原因

事業で得た地域との関わり・知見

地域との 関わり

1) 地域コミュニケーションづくり	▶コールセンターへの入電の約7割は70歳以上の女性で、オペレーターとの日常会話(世間話)が「見守り機能」を果たしている。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶活動制限下で「チョイソコ」を一定程度認知され、会員の約1/3は安定的に利用中。免許返納の進展により今後利用者増加を見込む。
3) 利用者満足度調査の実施状況	▶ご利用者の皆様には概ね高評価をいただいている。ご利用経験のない方々には如何にして使っていただくか検討。
4) 本事業の効果	▶70～80代のご利用が58%。…ターゲットの高齢者の移動の不便の解消とQOLに貢献。

本事業を通じ
て得た知見

1) 導入方法実験手法の評価

- ▶ 無償の実証実験からスタートしたことで「**チョイソコ**」という**交通システム自体や利用手法などが徐々に浸透**してきている。
- ▶ コールセンターへ立ち寄られる会員との交流や、スペースをイベント用に活用しており、マイナンバーカードの導入促進などのお手伝いも行っている。

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針の概要・役割	事業主体として猪名川町様、日の丸ハイヤー様と連携して「チョイスコ事業を」継続。地域活性化の支援も継続。実施体制も継承。							
2) 実施体制	事業主体	ネットトヨタ神戸(株)	運行主体	日の丸ハイヤー(株)	その他連携先	猪名川町 まちづくり部 都市政策課	運行形態	事業用車両（緑ナンバー）
3) 継続時の利用方法・利用時間 / 予約方法 / 運賃等	7:00～18:00* <日・祝日・年末年始(12/30～翌年1/3)> 運休/ 電話・ネット予約。30日前～当日1時間前まで。*一部8:00-17:00/一乗車300円(一部地域で200円)							

②③ 和歌山県紀美野町における自家用有償旅客運送の新規導入による公共交通の再編と買い物支援

メンバー

実施者：トヨタカローラ和歌山株式会社

連携団体：（株）なかモーター自工＜共同企業体、自販連会員マツダ販売店＞、元気長谷毛原会、紀美野町トヨタ・コニック・プロ（株）、（株）市場調査社名古屋

活動目的

○地域モビリティの導入 & QOLの向上

- 買い物弱者への支援
- 高齢者など交通弱者の移動支援&中山間地住民の外出機会創造

紀美野町：人口8,256人 高齢化率48.6%



活動実績：買い物支援「きみのり」+外出機会創造「ちょこっとお出かけ支援」モビリティ運行

实施概要

買い物支援
きみのり

1) 主な利用者の特徴	▶ 会員数30人 (長谷毛原地区65歳以上人口の10%)。▶ 利用者 ：のべ27人、ユニーク13人(会員数の43%)▶ リピート率 ：18.5%
2) 主な目的地	▶イオンタウン貴志川(総合スーパー)、病院・診療所、子供＆親戚宅
3) 運賃など利用者負担の形態	▶ 大人1名1往復の利用料(きみのり) ：1名利用の場合1,500円、2名利用の場合750円、3名利用の場合500円。
4) 自治体の補助金・助成金	▶なし

達成目標と実績

実施項目	目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標 (助成終了時)	2年後の実績 (助成終了時)	目標と実績の差の理由
地域住民との コミュニケーション	高齢者の外出回数	体験会参加人数	20人	42人	コロナ禍の外出自粛、外出意欲の低下等の影響。 積極的なPRも自粛。 ※コロナ禍で利用者数の増減が激しく繰り返された。
		会員登録数	135人	30人	
買い物支援 きみのり	買い物ツアー、買い物代行定期運行	運行回数	3回／週	2便／週	
	利便性の確認	利用者数	5人／日	最大12人／月 平均2.5人／月	
ちょこつとお出かけ支援	高齢者移動に関する興味喚起	実証実験稼働実績	50%	59.4%	
	紀美野町内観光の意欲向上	観光客の利用回数	2回／週	2回※稼働率16.7%	

事業で得た地域との関わり・知見

地域との
関わり

全体

1) 地域コミュニケーションづくり	▶ コロナ禍で口コミで広げることは難しかった。保健福祉課には主体的に取り組んでいただき、協業スタイル構築ができ、活動しやすくなった。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶ 2年間を通じてパンフレットの全戸配布4回。多様なアプローチを繰り返し実施。「きみのり」の認知はゆっくり浸透の実感。
3) 利用者満足度調査の実施状況	▶ 利用者満足度調査＆アンケート調査を2回実施。結果、利用者の満足度は高い。
4) 本事業の効果	▶ 新たな移動手段を提供することで買い物支援だけでなく、外出機会の創造の可能性が高まった点で地域での暮らしの楽しみが増える結果になった。

本事業を通じ
て得た知見

1) 導入方法実験手法の評価	▶ 外出機会の創造による結果は上記の通り。 ▶ 介護保険、訪問型Dの適応に伴い、福祉の側面が強くなり、地域の支え合い活動・まちづくり活動の意味合いも強くなり、地域力向上に貢献。
----------------	---

事業継続について

実施体制・方針の概要・役割	▶「きみのり」は本事業を終了し、適宜サポートを実施。「ちょこっとお出かけ」は紀美野町と継続的に事業のあり方を相談。							
	事業主体	・元気長谷毛原会	運行主体	・元気長谷毛原会	その他連携先	・紀美野町健康福祉課	運行形態	自家用(白ナンバー)
方法・利用時間 / 運賃等	・会員制：利用は事前予約制。・運行日時毎週土曜日(午前便と午後便)・利用者は利用料として燃料費など実費を負担。※乗降時の簡単な介助あり。							

24

活動目的

連携団体： 応神ふれあいバス運行協議会、徳島市地域交通課、(有)東丸タクシー、徳島バス(株)、トヨタカーラ徳島(株)

○住民自ら高齢者等の移動手段を確保するためコミュニティバスの運行を行い、高齢者の外出支援・健康維持を推進。

活動実績：住民によるコミュニティバス「応神ふれあいバス」の運営・運行

実施概要	1) 主な利用者・特徴	▶ヘビ―ユーザーは70歳～80歳代の女性、利用時間帯は午前中に集中			
	2) 主な目的地	▶複合施設の中のスーパー、衣料品店、きたじま田岡病院。			
	3) 運賃など利用者負担の形態	▶利用者が運賃を負担。			
	4) 運行内容	▶平日のみ運行			
達成目標と実績	目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標 (助成終了時)	2年後の実績 (助成終了時)	コロナ禍で、利用者が増加しなかったこと 新規利用者への広報活動（集会等）ができなかった
	定時定路線の運行	運行便数	24便／週	24便／週	
	利用者数	運行実績報告	4.5人／便	1.6人／便	
	運賃収入による事業継続性確保	運賃収入	16,583円／月	13,171円／月	

事業で得た地域との関わり・知見

地域との 関わり	1) 地域コミュニケーションづくり	▶ 徳島市との包括連携協定の下、定期的なコミュニケーションをとして近い将来、当該事業の推進体制の維持などの地域の課題を自治体に共有し、地域に貢献する議論を深められた。 ▶ コロナ禍で地域コミュニケーションの機会が少なかったが、ハガキ作戦、電話作戦、10周年記念誌を持参してお話をする等を実行できた。
	2) 認知状況と受け入れ状況	▶ カラー時刻表を折込チラシに複数回入れ、小人数だが若干の認知効果あり。
	3) 利用者満足度調査の実施状況	▶ 新しい利用者が出来つつあり、少しずつは浸透を実感。
	4) 本事業の効果	▶ 免許の返納で移動に困っている人に、バスがあつて良かったと思ってもらえた。 ▶ 利用者からは「どこにでも、移動ができるので、助かっている」との評価を得ている。 ▶ 常時利用されている利用者の方の外出手段の維持・確保に貢献出来た。近い将来の地域の課題を自治体に共有し地域貢献の議論を開始できた。
本事業を通じ て得た知見	1) 導入方法実験手法の評価	▶ コロナ感染症が流行している中、特に新しい事を打ち出せなかった。 ▶ 今後、潜在需要の把握し現状の定時定路線をそのまま続けていくのか、変更する必要があるかを考える必要がある。

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針の概要・役割	▶ 応神ふれあいバス運行協議会(事業主体)及び(有)東丸タクシー(運行主体)が引き続き事業を継続。徳島市は、引き続き運営支援を行う。							
2) 実施体制	事業主体	応神ふれあいバス	運行主体	(有)東丸タクシー	その他連携先	運営支援：徳島市地域交通課	運行形態	事業用(緑ナンバー)
3) 継続時の利用方法・利用時間 /運賃等	▶ 平日のみ運行。利用時間は時刻表参照。料金／大人片道運賃:300円、小人片道運賃:150円。往復乗車割引有／大人200円、小人100円割引							



26

実施者：長崎トヨペット株式会社

連携団体：雲仙市、雲仙市社会福祉協議会、雲仙市自治会長連合会、島原鉄道、地元タクシー業者(4社)
(株)アイシン、雲仙みらいかたる(株)、シティキャブ長崎、雲仙ゴルフ場

以下を対象とした移動手段を同時に実現し、雲仙市の持続的発展を目指す

- 地域住民**…高齢者の健康維持／活性化の促進と、学生の通学
- 観光客**…確実＆楽しい長崎市・長崎空港から雲仙へのルート、市内周遊

※本レポートは**地域住民の移動手段に限定**

雲仙市：人口44,115人 高齢化率31.7%



活動実績：「チョイソコうんぜん」による地域住民の移動支援事業

※2022年
3月末現在

- | | |
|-----------------|---|
| 1) 主な利用者・特徴 | ▶ 高齢者(70-80歳代)、特に女性が3/4強。時間帯は当初午前中に集中していたが、午後の利用者が増加傾向。 |
| 2) 主な目的地 | ▶ 病院とスーパー・農協が中心。 |
| 3) 運賃など利用者負担の形態 | ▶ 運賃200円／回 ※料金体系は当初より変わらず。 |
| 4) 走行区間 | ▶ 2区間(国見－瑞穂、吾妻－愛野) |

※地域住民

目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標 (助成終了時)	2年後の実績 (助成終了時)	目標と実績の差の理由
利用しやすいシステムの提供	利用者数	30人／日／台	月平均最大値 20人／日／台	1年目経過時に目標は25人／日／台に変更
スポンサーの確保	スポンサー契約数	12社	28社	目標達成
会員の確保	65歳以上の会員数	60%	79.2%(768/970名)	会員数増強にもっと拘りたい

事業で得た地域との関わり・知見

1) 地域コミュニケーションづくり	▶ チョイソコは協議会方式で運営。関連する事業者等との交渉はスムーズに運んだ。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶ 会員数が着実に増加（R2年10月：450人、R3/3：730人、R4/3：960）し、チョイソコは十分に認知され、利用されるようになった。
3) 本事業の効果	▶ 地域で暮らし生きることの喜びの発見・移動手段によるQOLの向上・外出機会の創出。

1) 導入方法実験手法の評価

事業継続について

- | | | | | | | | |
|-------------------------------|---|------|--------------------|--------|---|------|------------|
| 1) 助成終了後の実施体制・方針の概要・役割 | ▶ 本年7月より雲仙市全体を4台のチョイソコ車両でカバーし、地域住民(特に高齢者)の外出を促進中。 | | | | | | |
| 2) 実施体制 | 事業主体
・雲仙市
・長崎トヨペット(株) | 運行主体 | 雲仙市内のタクシー事業者(6-7社) | その他連携先 | — | 運行形態 | 事業用(緑ナンバー) |
| 3) 継続時の利用方法・利用時間 / 予約方法 / 運賃等 | チョイソコうぜん 運賃等 ▶ 1乗車200円 、運行日時：月－土曜の午前9時～午後5時、事前電話予約要。 | | | | | | |

②7 自治体圏域を超えた広域連携体制による移動課題解決への新たなアプローチ

メンバー

実施者：鹿児島トヨタ自動車株式会社

連携団体：おおすみMMO（Mobility Management Organization モビリティ・マネジメント・オーガニゼーション）

活動目的

○広域での取り組みによる交通資源(手段、担い手)の再編。再編による広域移動利便性の向上

○利便性向上による「負のスパイラル」の抑制。持続性向上による交通弱者の移動手段確保。

○担い手(送迎する親族)の負担軽減。生活支援やフレイル予防によるQOL向上。

・【広域】肝属温泉タクシー・【肝付町】AIタクシー・【錦江町宿利原】自家用無償運行・【南大隅町】貨客混載運行

※本活動実績は、【広域】肝属温泉ターミナル、【肝付町】AIターミナル、【南大隅町】貨客混載運行について記載

肝屬郡：人口33,889人 高齢化率 43.1 %



活動実績：【広域】肝属温泉タクシー＆【肝付町】AIタクシー他連携による広域移動支援事業

実施概要
※2022年
3月末現在

- | | |
|-----------------|---|
| 1) 主な利用者・特徴 | ▶【広域】肝属温泉タクシー：ほとんど利用無し ▶【肝付町】AIタクシー：会員数978名（コナ禍でドライバー、お客様とリンクできずお客様属性不明） |
| 2) 主な目的地 | ▶【広域】肝属温泉タクシー：地区外の温泉施設 ▶【肝付町】AIタクシー：A-コープ（スーパー）、岸良診療所、ミネサキ（スーパー）、西が丘（クリニック） |
| 3) 運賃など利用者負担の形態 | ▶【広域】肝属温泉タクシー：無償運行 ▶【肝付町】AIタクシー：利用者 200円／回 |

達成目標と実績

※地域住民

地域・エリア	目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標 (助成終了時)	2年後の実績 (助成終了時)	目標と実績の差の理由
肝属温泉タクシー (デマンド)	広域での定期的な利便性ある運行	運行便数, 利用者数	20便/月, 70名/月	10便/年, 5名/年	コロナ禍で周知機会を作れず、イベントも中止になるなど外出機会の創出ができなかった。
	広域イベントでの活用	広域イベント目的利用回数	6回/年度	0回/年	
肝付町全域 AIタクシー	定期的な運行	運行回数 ※デマンド運行	400便/月	669便/月	順調に会員数・利用者数増加。 タクシー事業者・受付担当者の確保、自治体の負担金の改善が課題。
	域内運行での利便性向上	利用者数 ※複数人乗車を推進	560名/月	693名/月 R2年:7988名、R3年:8662名	
南大隅町 貨客混載運行	定期的な運行（利用） 買い物難民の減少	運行便数 利用者数 ※実人数	6便(往復)/月 20人	19回利用	本格実行までに料金収受の仕組み等準備・調整に時間を要した。

事業で得た地域との関わり・知見

地域との 関わり

- | | |
|-------------------|---|
| 1) 地域コミュニケーションづくり | ▶ 高齢化率が高く、直接会える機会を設けサロン等で住民説明会等を行ったが、コロナ禍での開催中止等で十分な実施機会を持てなかった。 |
| 2) 認知状況と受け入れ状況 | ▶ 【肝付町】AIタクシー以外の事業ではコロナ禍の移動制限で利用者はほとんどなく、認知度を上げられなかったため有益性が十分伝わりきらなかった。 |
| 3) 利用者満足度調査の実施状況 | ▶ 使い方が分かり難い、バス停までの移動が不便、名称が「温泉タクシー」なので温泉を利用しないので使わないなどの意見をいただいた。 |
| 4) 本事業の効果 | ▶ 肝属温泉タクシーとの連携→広域移動利便性向上。温泉目的での移動需要の創出。ただし、観光客減で効果が限定的。 |

本事業を通じ て得た知見

- 1) 導入方法実験手法の評価

事業継続について：【肝付町】AIタクシー、【南大隅町】貨客混載運行 ※【広域】肝属温泉タクシーは助成終了とともに本事業も終了

実施体制・方針の概要・役割		肝付町全域AIタクシーと南大隅町貨客混載運行は、各町が事業主体となり地域の事業者が運行主体となって継続						
肝付町AIタクシー	事業主体	肝付町	運行主体	立石タクシー、鶴丸タクシー、銀河タクシー	その他連携先	・九州経済研究所 ・鹿児島トヨタ自動車(株)	運行形態	事業用(緑ナンバー)
南大隅町貨客混載運行		南大隅町		佐多交通				
肝付町AIタクシー		▶利用者 200円/回(料金の差額は財政負担)、【運行時間】午前9:30～午後4:00まで 【運行日時】月・水・金、内之浦エリア：月・水・金、岸良エリア：火・金、予約方法は、電話予約またはWeb版アプリ予約※岸良エリアは電話のみの予約						
南大隅町貨客混載運行		▶利用者：最寄りのコミュニティバス乗降場所にて商品注文票と代金をバス運転手に受渡し。バス運転手：市街地に到着後、スーパーへ商品注文票受渡し。 利用料：無料 スーパー：商品注文票に書かれた商品を準備。バス運転手：スーパーに代金を支払い、商品を受け取りバスに搭載(貨客混載) 毎週火曜日文注⇒木曜日乗降場所へ引渡し						

2020 志（KOCOROZASHI）プロジェクト ～志布志を楽しく、楽LLAKUに～
～オンデマンド交通/販売店店舗を軸にした、志布志市住民のクオリティオブライフ向上～

メンバー

実施者：トヨタカローラ鹿児島株式会社

連携団体：志布志市、(株)アイシン、トヨタファイナンス(株)、損害保険ジャパン(株)



活動目的

○新たな地域交通サービスを軸に、地域住民のニーズに合致する事業を販売店店舗を中心に推進し、販売店店舗を「移動」「防災」「コミュニティ」「観光」の中心となる地域の“**志溢れるモビリティステーション**”とする

志布志市：人口31,479人 高齢化率32.9%

活動実績：チョイソコしぶし事業による移動手段の提供・生活支援・地域のつながり向上・商業振興

1) 主な利用者・特徴	▶志布志市人対象とするが、主な利用者は 高齢者や身体障害者
2) 主な目的地	▶事業所停留所利用…1位 ショッピングモール、2位 スーパー、3位 眼科 公共施設停留所…1位 市役所、2位 駅、3位 文化会館
3) 運賃など利用者負担の形態	▶第1期実証実験(2020年7-12月)⇒無償、第2実証実験(2021年1月-12月)⇒有償/1乗車200円、 第3実証実験(2022年1月～)⇒1乗車200円

目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標 (助成終了時)	2年後の実績 (助成終了時)	目標と実績の差の理由
移動困難者の減少	会員数／利用回数	2,500名／10,000回	850名／9,158回※延べ	会員数:コロナ禍で十分な説明会等が実施できなかった。 利用回数:コロナ禍では満足いく結果。 停留所:上記同様。外出機会創出には寄与。
利便性の高いサービス	行先停留所数	50カ所	事業者停留所27 公共施設停留所160	
志布志店の防災拠点化	備蓄数／給電車両の配備台数	100名＊3日分／2台	備蓄数完備／給電車両配備	目標通り達成できている。

事業で得た地域との関わり・知見

1) 地域コミュニケーションづくり	▶ コロナ禍で住民説明会の開催に苦慮。工夫として個別にサロンや自治会の集会に参加し、説明を行なった。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶ 地域での認知は確実に向上し、浸透の実感有り。
3) 利用者満足度調査の実施状況	▶ 2021年12月実施。入会後の利用状況は、4割の方が利用経験があり、そのうち3割の方が定期的に利用。
4) 本事業の効果	▶ 不定期で行った利用者アンケートや自治体の担当者・首長様からは一定評価の声有り。会員数850名程度は人口カバー率で3%。

本事業を通じ
て得た知見

1) 導入方法実験手法の評価	▶ 運行・会員数・利用件数、いずれも伸びてきており、一定の成果があった。
----------------	--------------------------------------

事業継続について

実施体制・方針の概要・役割	▶弊社側の実施体制及び方針に変更なし。助成期間終了後は下記の事業主体と運行主体を様々なカタチでサポート。							
	事業主体	志布志市 地域公共交通活性化協議会	運行主体	・みなとタクシー ・三州タクシー	その他連携先	・トヨタカローラ鹿児島(株) ・(株)アイシン	運行形態	事業用(緑ナンバー)
方法・利用時間 / 運賃等	チョイソコしぶし 予約方法▶電話のみ(2週間前から利用1時間前)、運行時間▶平日9:00-16:00、運賃等▶1乗車200円							

②9 浦添らしい、持続可能な移動手段の仕組み作り

メンバー

実施者：沖縄トヨペット株式会社

連携団体：浦添市、浦添市タクシー事業者会、一般社団法人りっか浦添、てだこサンサン共同企業体(指定管理者)
ユヌス・よしもとソーシャルアクション(株)、よしもとエンタテインメント沖縄、一般社団法人ままーる協会、(株)アイティメル沖縄
沖縄トヨタ自動車

活動目的

○浦添らしい持続可能な移動手段の仕組み作り

○移動制約者（学生、高齢者、要支援者等）の移動手段確保に向けて、行政・運行事業者におけるコミュニティバスの運行
⇒運転手担い手支援、利用促進などでコミュニティバス（うらちゃんmini）を支える

浦添市：人口115,268人 高齢化率20.7%



活動実績：コミュニティバス「うらちゃんmini」の運行による移動制約者及び交通難民の支援

実施概要

※2022年
3月末現在

1) 主な利用者・特徴	▶学生、高齢者、要支援者が主体（全体利用の67%） ▶平日の利用が多く、土曜が平日の6～7割、日曜が平日の3割程度。
2) 主な目的地	▶サンエーパルシティ、サンエー経塚シティ等の商業施設。病院や公共施設。※モルレルやバス停などの公共交通機関結節点での乗降も見られる。
3) 運賃など利用者負担の形態	▶通常運賃：大人400円(65歳以上・免許返納者・障がい者は割引運賃300円)。小人200円。
4) 自治体の補助金・助成金	▶自治体からの補助は運行経費の30%。※（公）浦添青年会議所からの支援有り。

達成目標と実績 事業全体

目標項目	達成状況の確認方法	2年後の最終目標 (助成終了時)	2年後の実績 (助成終了時)	目標と実績の差の理由
移動不便者の利用者数	デマンド交通利用者	910名/日	180名/日	コロナ禍での行動制限が影響。オンデマンド交通の運行可能な利用者数の目標設定が必要。
運転手担い手数	運転手担い手者の確保数	2名	—	
利用推進お笑いライブ開催	お笑いライブ開催累計数	8回/(3か月に1回)	2回	コロナ禍で計画通り実施できず。※フォロー策として、よしもとエンタテインメント様のご協力を得て「親子向けのデマンド交通利用促進アニメDVD」を作成。
運転手担い手PR動画作成	CM放映	浦添市HPにアップ	公式YouTubeチャンネル「沖縄県浦添市デマンド交通うらちゃんmini」開設 https://www.youtube.com/watch?v=orFMSI5naZY	

事業で得た地域との関わり・知見

地域との関わり

1) 地域コミュニケーションづくり	▶コロナ禍で、大々的に地域体験事業を通じた周知ができず、うらちゃんminiの告知にとどまったが市の広報との連携で地域住民に周知ができた。
2) 認知状況と受け入れ状況	▶広告チラシの作成及びテレビCM制作、車両ラッピング、イベント開催などによる認知手段を充実し認知要因の73%となり、利用促進につながった。
3) 利用者満足度調査の実施状況	▶現在運行休止中。利用者 & 地域からは継続を求める声が多く、5月の臨時議会にて継続議案を審議予定。
4) 本事業の効果	▶本事業と連携して地域公共交通を運行したことで買い物や病院・公共施設などへのアクセスが向上。地域住民のQOLが向上に貢献した。

本事業を通じて得た知見

1) 導入方法実験手法の評価	▶本事業による利用促進策により、1年という短期間で利用者数の増加を実現できた。 ▶コロナ禍であること & 車内での広報導入などの取り組みが不十分であったことから代替案の早期実行ができなかった。
----------------	---

事業継続について

1) 助成終了後の実施体制・方針

事業終了（今回はPR事業ゆえ、事業終了）